



—第12号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5427
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

神戸大学キャンパスツアー —神戸市灘区との連携事業

神戸大学と本部キャンパスのある灘区とは、地域社会の発展と人材育成を目的として、平成16年12月に連携協定を締結し、協力して事業を行っています。今年度は連携事業の一つとして、近隣の灘区民の方々に神戸大学を知ってもらおうと、平成24年10月5日(金)に、本学キャンパスツアーを兼ねた灘区民まちづくり会議を本学で開催しました。

灘区民まちづくり会議は、区民・事業者・行政による協働のまちづくりを目指し、地域団体を代表する方々で組織されている会議です。会場の百年記念館六甲ホールには、灘区民まちづくり会議委員と灘区行政関係者合わせて約50名の方が集まりました。

会議終了後、中村千春地域連携担当理事の挨拶でキャンパスツアーが始まりました。まず、百年記念館1階にある附属図書館大学文書史料室で開催されている110周年事業神戸大学史展へ足を運び、往年の六甲台キャンパスの写真を懐かしそうに見学されました。その後、六甲台第一キャンパスへ移動し、国登録有形文化財である社会科学系図書館や出光佐三記念六甲台講堂を見学しました。当日は秋の晴天に恵まれ、訪れた方々は、百年記念館や六甲台第一キャンパスから、神戸を一望する景色を楽しまれました。



百年記念館



出光佐三記念六甲台講堂

“大学と自治体が手を結ぶとき”をテーマに

—平成24年度神戸大学地域連携活動発表会

平成24年12月21日(金)、瀧川記念学術交流会館大会議室で、平成24年度神戸大学地域連携活動発表会を開催しました。今年度は、自治体及び他大学からの参加者や学内の関係者合わせて約55名の参加がありました。

中村千春地域連携担当理事の開会挨拶、奥村弘地域連携推進室長の趣旨説明に続き、第一部では、「地域連携事業」に採択された経済学研究科の石川雅紀教授と衣笠智子准教授から、また「学生地域アクションプラン」に採択されたK×labの東川宏樹さんから、それぞれ発表がありました。学内の3研究科地域連携センター(人文学/保健学/農学)及び篠山フィールドステーションの担当者からも、今年度の活動報告がありました。

第二部の意見交換会には、人文学研究科 村井良介特命助教、保健学研究科 高田哲教授、農学研究科 杵本敏男教授に加え、学外から灘区まちづくり課事業推進担当係 勝間恒平係長、篠山市企画課篠山に住もう帰ろう室 竹見聖司室長をパネリストにお迎えしました。ここでは、大学と自治体が相互に連携していく意義や地域連携の持続性の重要性、協定締結が意味するもの等について、さまざまな意見が交わされました。最後に、兵庫県立大学の高坂誠副学長・地域創造機構長に全体を統括するご講評を頂き、閉会となりました。

発表会の報告や意見交換を通じて、それぞれの立場から、持続的な地域連携活動による研究・教育上のメリットや今後の展望などについて考える良い機会となりました。

この発表会の様子は、本年度の「地域連携活動報告書」で報告しています。報告書をご希望の方は、本学連携推進課産学官連携グループ(078-803-5427)までご連絡ください。



学生地域アクションプランより 「甲陽園大池市営住宅跡地活用プロジェクト」

学生の地域貢献活動を支援する「学生地域アクションプラン」に今年度採択されたグループの1つが、K×lab（ケイラボ）です。このグループの活動は、地域の方から地域連携推進室にかかってきた1本の電話がきっかけでした。代表の工学研究科博士前期課程1年の東川宏樹さんにお話を聞いてみました。

一「K×lab（ケイラボ）」とはめずらしいお名前ですね。どういうグループですか。

K×labは、工学研究科建築学専攻住環境計画研究室、近藤民代先生のゼミの学生を中心に作られたグループです。K×labの「K」には3つの意味が込められています。まず神戸大学の「K」、2つ目は近藤研究室の「K」、そして3つ目は、調査の対象となった場所である甲陽園の「K」です。ここに、研究室を意味する「lab（ラボ）」をくっつけました。これらがうまく相乗効果をもたらして、僕たちは良い研究ができ、地域の方も新たな発見があれば良いなと思ってこういう名前をつけました。近藤研究室の学生（学部4年生から大学院博士前期課程の院生、研究生まで）が中心となり、地域の方々と一緒になって作ったグループです。

一活動のきっかけ、目的を教えてください。

活動のきっかけは、地域連携推進室を通じて、甲陽園在住の住民の方から相談を受けたことです。その相談の内容は、地元の大池の近くに西宮市が所有している市営住宅の跡地があり、その場所を住民のために有効活用していきたいというものでした。僕自身としては、実家の近くでもあり、非常になじみのある地域でした。また、研究室自体が非常にアクティブなので、やってみようということになりました。その後、地域の方々と意見交換し、現地を見に行きました。

学生地域アクションプランに応募したのは、先生から勧められたからです。大学として関われるほうが、長期的に見て良いと考えました。申請書を書くのは始めてだったのですが、最後は先生にチェックしていただき、良い経験になりました。

目的としては、この市営住宅跡地の有効活用方法を検討するというのと、その有効活用方法を検討する過程で住民同士が交流を持ち、より良いコミュニティを築けるような活動を目指すということでした。

一具体的にどのような活動をされたのですか。

まず、現地に行く前に文献調査をおこない、甲陽園の歴史的経過など背景などを調べました。その後現地に行き、周辺住民へのヒアリングや西宮市役所へのヒアリング、GIS（Geographic Information System；地理情報システム）による調査をおこない

ました。

市営住宅の跡地が良い場所にあるので、うまく使っていくにはどうしたら良いか相談したいということでした。住民でもなく、行政でもない第3の立場としての学生が入ることで、今までなかった流れができれば良いなと思いました。

現地には、メンバー全員で住民の方々のお話を聞きにいったこともありますし、個人で伺ったこともあります。5月13日には、甲陽園ボランティアセンターで、地域の方を対象に、学生による活用方法提案会を開催しました。学生は3つのグループに分かれて、各テーマごとに意見交換をしました。すると、地域の方々の意見はバラバラでした。

各テーマは「地域環境学習」、「地域の庭」、「誰しもが安らげる場所」。これらは学生自身が考えたものです。この話し合いの狙いは、実現しようというテーマを提示するのではなく、学生はこのように考えていますというのを知ってもらって、地域の方に考えてもらうきっかけづくりにしようというものでした。



一どのような意見が出ましたか。

「空き地のまま」、「憩いの場を作りたい」が印象に残っています。コミュニティデザインとは、建物をつくるのではなく、つながりの場をデザインすること、またその過程を通じていかに人がつながるかを考えていくことです。住民の方からは「空き地のままで良い」という意見が出ましたが、管理の方法を見直す必要があるということも分かってきました。

一活動をしてみてどのような感想を持っていますか。また、今後はどうされますか。

地域の方は、僕たちの話はよく聞いてくださいました。ただ、「では一緒にやろう」という人が出てきてくれることを期待していましたが、そこまではいきませんでした。どこまで入って良いのか、距離感が難しかったと思います。次のステップに進むのを手伝うのが僕たちの立場だと思っています。

まちづくりの問題は、今年度中で片付ける問題ではなく、長期的なものです。来年度も月に1回くらい意見交換の場を持てるように設定をしたいと思っています。僕にとって、人、特に年上の方と話す方法、関わり方の勉強をさせていただき、本当に勉強になりました。また、僕たちの卒業後も続いていってくれたら良いなと考えています。

一ありがとうございました。

第7回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム

平成25年1月26日(土)、丹波広域農業研修センター(篠山市)にて、第7回篠山市・神戸大学地域連携フォーラムが開催されました。このフォーラムは、神戸大学が篠山市でおこなっている共同研究や農業実習、学生サークルによる活動などの1年間の活動成果を紹介するものです。会場の入口付近には、約30枚の活動紹介ポスターが展示されました。

まず、内田一徳農学研究科長、酒井隆明篠山市長から挨拶があり、続いて1年間の取り組み報告として、人文学研究科から坂江渉特命准教授、保健学研究科から小野玲准教授、農学研究科から布施未恵子研究員によって、篠山での活動が紹介されました。その後、高尾千秋人間発達環境学研究科助教によるESDサブコースの紹介や、黒田慶子農学研究科教授の「篠山の里山を次の世代に渡すために」と題する特別講義がありました。

学生たちによるポスターセッションは、休憩をはさんでおこなわれました。篠山での演習等に参加している学生たちが、班やグループに分かれて、活動を紹介するポスターの前で説明をおこないました。それに対して参加者が、「ポスター発表賞」の1票を投じました。

投票結果は懇親会で発表されました。受賞した学生たちには、地元の協賛団体等から賞品が渡されました。

今回のフォーラムには、篠山市民約40名、神戸大学関係者約110名の参加がありました。フォーラムの様子は、参加者の声を拾いながらツイッターで発信されました。それを会場に表示するという試みが行われ、参加者たちからも好評を得ていました。

* ESDサブコースとは、専門以外に持続可能な社会づくりのための教育(ESD)の力量をつけるための学習コースで、発達科学、文学、経済学、農学、国際文化学、工学の6学部で実施されています。



“災害時の要援護者に対する支援”セミナー

神戸大学保健学研究科地域連携センターと都市安全研究センターが主催となり、平成25年2月24日(日)、ラッセホール(神戸市)で、“災害時の要援護者に対する支援”セミナーが開催されました。本セミナーは災害時や災害後に困難をかかえる子どもやその周囲の人々への支援を考えることを目的とするものです。昨年夏に東北で開催された報告を、是非神戸の方々にも伝えたいということが、今回の開催につながりました。

前半では、まず本学保健学研究科高田哲教授が、「子どもたちへの支援—阪神・淡路大震災の経験から学んだこと」と題し、神戸や平成17年のジャワ島中部地震被災地での経験について講演しました。続いて、全国児童発達支援協議会(CDS)が福島でおこなっている支援が、宮田広善副会長から紹介されました。さらに、東北大学の田中総一郎准教授、宮城教育大学の菅井裕行教授から、障害のある子どもたちの避難システムに関する問題点や石巻の子どもたちの地震発生から現在までの様子について、実際の支援活動経験をもとに報告されました。

後半では、「震災等で家族をなくした子どもと保護者のピアサポート」といった震災遺児の問題や「被災地における被災者および支援者のストレス」といった支援する側へのサポートの必要性が話されました。

東日本大震災から約2年を経て、今なお続く被災地での苦悩の様子を現地で活動されている方から伺って、改めて支援の必要性を実感しました。



人文学研究科地域連携センターより

第11回 歴史文化をめぐる地域連携協議会「地域史を調べること学ぶこと」が、平成25年2月2日(土)、神戸大学大学院人文学研究科で開かれました。

テーマは「地域史を調べること学ぶこと—目的と支援を問い直す—」。兵庫県内で地域史を研究されている方々の実践活動とともに課題が報告されました。

当日は、県内の自治体関係者・住民グループ・大学関係者など、学内外あわせて79機関109名が参加。活発な意見交換のほか、ブレイクタイムやポスターセッションの時間を利用した参加者同士の交流が深まりました。



活動報告 (2012年9月～2013年2月)

9月	01日	まちプロジェクト—まちTゆうえんち'12の開催 (灘区まちづくりチャレンジ事業)
	03日	神戸市大学連携支援室来訪
	04日	灘区まちづくり課来訪
	06日	Rural Learning Network セミナー (篠山) に参加
	09日	スイング・ジャズ・クルーズ in 神戸の開催 (灘区まちづくりチャレンジ事業)
	27日	キャリアセンターと調整
10月	05日	灘区民まちづくり会議、神戸大学キャンパスツアーを実施
	18日	加西市、地域連携事業についての相談のため来訪
	19日	三木市、地域連携事業についての相談のため来訪
	25日	佐賀大学産学・地域連携機構キックオフシンポジウムに参加
	26日	第1回地域連携大学間ネットワーク (仮称) 検討会開催
	28日	丹波地域 大学連携フォーラム in 篠山の開催 (篠山フィールドステーション)
11月	08日	加西市、篠山フィールドステーションを見学、意見交換
	16日	連携創造本部と調整
	23日	スイング・ジャズ・クルーズ in 灘の開催 (灘区まちづくりチャレンジ事業)
	27日	第2回地域連携トークイベント「A-Launch」に参加 (農学研究科地域連携センター)
	29日	人と防災未来センター訪問、神戸市大学連携支援室来訪
12月	10日	経営学研究科と調整
	14日	第3回地域連携推進室会議の開催
	20日	第3回地域連携トークイベント「A-Launch」に参加 (農学研究科地域連携センター)
	21日	平成24年度神戸大学地域連携活動発表会の開催 (瀧川記念学術交流会館) 「摩耶道のおおの村の歴史 講演とフィールドワーク」(人文学研究科地域連携センター、灘区まちづくりチャレンジ事業)
	26日	第2回地域連携大学間ネットワーク (仮称) 検討会の開催
1月	26日	第7回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム開催
	29日	都市安全研究センターとの調整
2月	02日	第11回歴史文化をめぐる地域連携協議会開催 (人文学研究科地域連携センター) 第8回地域連携センター報告会開催 (保健学研究科地域連携センター)
	03日	第2回特別研究プロジェクト・国公立大学フォーラム「地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学」開催 (人文学研究科)
	05日	神戸市大学連携支援室来訪
	08日	工学研究科と調整
	12日	灘区まちづくり課来訪
	13日	篠山市と意見交換、兵庫県教育委員会と意見交換

【お知らせ】

教職員、学生グループを対象とした、平成25年度「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成」の公募が例年より早く行われています。奮ってご応募ください。

応募期間：平成25年3月18日(月)～平成25年4月15日(月)

問い合わせ先：研究推進部連携推進課産学官連携グループ TEL:078-803-5427 (内線:2394)

